



## 来週の投資戦略 (9/2-6)

### 39,000 円を抜いて維持するには

2024 年 9 月 1 日

小松 徹

#### 注目事項 - 見所

9 月 6 日、欧州の 4-6 月期実質 GDP 成長率確定値 — 前期比+0.3%?  
9 月 6 日、米国の 8 月雇用統計 — 失業率は 4.2%に改善?

#### 株式市場見通し

先週注目のエヌビディア (米 AI 半導体最大手) の決算がアナリストの予想をやや上回って終えたことで、市場には安心感が出たようだ。米国経済指標も良好だったため、米株高、米ドル高となったことで、わが国の株式市場も木・金曜日に続伸した。先週金曜日に米国株式市場が全面高になったことから、来週のをわが国の株式市場も全面高で始まりそうだ。日経 225 は 39,000 円に戻ると期待されるが、この水準では売り圧力も高まると見られる。来週は米国時間金曜日発表の 8 月の雇用統計など、米国経済指標が注目され、各市場がそれらに反応しよう。

わが国の市場が 8 月始めの暴落からここまで順調に反発してきたが、必ずしも手放しで喜べる状況ではない。まず、売買代金が 3 兆円台までピーク時から半減した。過去の売買代金が多い水準を抜くには、今後売買代金が 5 兆円くらいまで増加する必要がある。次に、中長期の海外投資家が現物市場で買い越すことだ。先々週の投資家別売買動向を見て残念だったのは、現物市場で海外投資家が 40 百億円売り越していたことだ。暴落時には 51 百億円買い越していたので、強力な支援者だと思っていたが、やはり極めて割安でないかと参入しないか。最後に、日米ともに選挙戦中で経済政策も不透明な点が多い。特定の産業群に賭けるにはやや危険だろう。様子見気分が長引くことも考えられる。

ところが、わが国では自民党の総裁選候補者が 10 名を超すと予想され、盛り上がっている。選挙後にすぐに解散しても自民党政権は安泰との意見も出てきた。現政権の支持率が底打ちし、自民党の支持率が回復していることが根拠になっている。民主党も党首選挙前だが、残念ながら候補者が昔党首だったか、その幹部だった人ばかりだ。新鮮味がなく、党の政策も自民党の失点をつく以外のものがあるかわからない。こうしたことから、いつも通り、解散前は買いとの合言葉がどこからか聞こえてくる。今回は米国大統領選、議会選など複雑な要因もあり、そう単純ではないように思うが。

最後に、来週米国で発表される経済指標について。火曜日に 8 月の ISM 製造業景況指数が 47.5 と前月の 46.8 から改善すると予想されている。木曜日に ISM 非製造業景況指数が 50.9 と前月の 51.4 から悪化すると予想されている。同日に、8 月の ADP 雇用統計が前月比 138 千人増 (前月は+122 千人) と予想。金曜日に 8 月の雇用統計で注目の失業率が前月の 4.3%から 4.2%に改善すると見込まれている。前月の 0.2 ポイント悪化が天候要因などで一時的と確認されるか。なお、非農業部門雇用者数が前月比 +165 千人、平均時給が前年比+3.7%と予想されている。

#### KPA の投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期増益株	高 PB 低位株、高 PE 新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。